

令和3年度自己評価計画書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の1人1台端末の効果的な利活用に向けた校内研修会の実施、定通連携の公開授業への積極的参加等を通して、授業や学校環境のユニバーサルデザイン化を推進することで、生徒の授業満足度を高め、安全・安心な学校づくりを目指す。	① 授業や学校環境のユニバーサルデザイン化という観点を踏まえ、生徒の基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	教務課 各教科	多様な学習歴を持つ生徒が入学しており、学力差が大きく、授業内容を理解できない生徒がいる。概ね素直な生徒が多く、学習態度は落ち着いている。	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教具の工夫によって、よく分かる授業が行なわれている。	授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	C・Dなら検討	前期末及び2月に調査 生徒
				【成果指標】 授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと実感している。	授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと答えた教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dなら検討	前期末及び2月に調査 教員
				【努力指標】 教員が、授業改善のため、定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学している。	定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 3回未満	C・Dなら検討	2月に調査 教員
	② 1人1台端末の効果的な利活用に向けて、ICT機器を活用した工夫された授業を展開し、生徒の学習効果の向上を目指す。		iPadに加えて、Chromebookも昨年度、配備された。生徒の1人1台端末の効果的な利活用に向けて、これらのICT機器を活用した授業研究に積極的に取り組んでいく必要がある。	【努力指標】 タブレット端末等のICT機器を効果的に活用した授業を展開している教員が多い。	タブレット端末等のICT機器を効果的に活用した授業を行なった教員の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dなら検討	2月に調査 教員

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 総合的な探究の時間を中心とし、生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践することにより、生徒の自尊感情を高め、充実した学校生活を送れるよう支援し、社会人として必要な人間力の育成を図る。	① 日々の声掛け等の、粘り強く地道な指導を続け、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	生徒課 保健課 各学年 各教科	基本的な生活習慣が乱れている生徒や、欠席・遅刻をする生徒が固定化している。	【成果指標】 生徒が、欠席・遅刻をしないように努めている。	欠席・遅刻をしないように努めている生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dなら検討	前期末及び2月に調査 生徒 教員
		全教員	毎日しっかり3度の食事を摂っている生徒の割合は年々増加しており、基本的な生活習慣も確立してきている。	【成果指標】 生徒が、毎日しっかり3度の食事をとっている。	3度の食事をとっていると回答した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dなら検討	前期末及び2月に調査 生徒
	② いじめを含め問題を抱える生徒の早期発見と支援を行い、問題行動の未然防止を図る。	教育相談 生徒課 全教員	校内は比較的落ち着いている。生徒の情報を共有するための支援連絡会を、1か月に1回以上開いている。	【努力指標】 教員間の連絡を密にし、生徒一人ひとりの理解を深め、現状を把握し支援している。	支援連絡会やいじめ対策委員会を通して、生徒の現状を理解し、支援ができていると評価する教員が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	C・Dなら検討	前期末及び2月に調査 教員
	③ 総合的な探究の時間等で生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践する。	全教員	昨年度はコロナ禍による制約から、教室外での活動は十分に実施できなかった。そこで、今年度は、生徒の興味関心に基づいた探究活動を地域課題との関連付けて実施することが重要である。	【満足度指標】 生徒が、総合的な探究の時間において充実した取組ができたと感じている。	充実した取組ができたと回答した生徒の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dなら検討	前期末及び2月に調査 生徒
④ 地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動を実践する。	生徒課 各学年	昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本校主催のボランティア活動は実施できなかった。そこで、今年度は地域貢献活動の有用性を捉えて、実施する必要がある。	【成果指標】 地域活動への参加・交流に取り組む生徒が多い。	地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動に参加した生徒の割合 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	C・Dなら検討	前期末及び2月に調査 生徒	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒の能力や特性に応じた個別の支援計画を早期に作成し、共有し、活用することで、生徒の進路実現の充実を図る。	① 生徒が、自己の能力・適性を理解し、学習意欲の向上を図れるように、資格取得に向けた指導を行う。	生徒 課 各 教 科	3、4年次生には資格取得に意欲がある生徒が多い。そのため、1、2年次生が上級生から刺激を受けて、資格取得者が増加しつつある。	【成果指標】 資格取得、検定試験、コンクール出展に取り組む生徒が多い。	検定・資格取得・コンクール出展に取り組んだ生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C・Dなら検討	2月に調査 生徒
	② 卒業までを見通した指導計画に基づき、生徒各人の能力・適性に応じた支援・指導を行う。	進 路 課 各 学 年	自己の進路に関心を持たず、自分の能力・適性を理解していない生徒が多い。	【成果指標】 生徒が、自己の進路に関する関心を高めている。	自己の進路に関する関心が高まったと回答した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dなら検討	前期末及び 2月に調査 生徒
	③ ハローワークや地域の企業等と連携して、生徒の就業の支援・指導を行う。		昨年度はコロナ禍による学校休校の影響で就業が厳しくなったため、生徒の就業の支援・指導を十分に行うことができなかった。	【成果指標】 生徒の就業（アルバイト・パートを含む）率が高い。	就業率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dなら検討	前期末及び 2月に調査 生徒 教員
4 校務分掌の適切な割り振りや業務遂行の協働を進め、教材研究や生徒理解の充実を図る。	① 職員間の横の連携を強め、積極的に協働し、生徒理解に取り組む時間を確保する。	教 頭	教職員数が少ないため、一人が複数の校務分掌を抱えているが、業務の効率化が図られている。昨年度までの取組を通じて時間外労働時間が減少しており、多くの教員は、労働環境が改善したと感じている。	【成果指標】 業務の効率化を通して、教員が、生徒理解に取り組む時間を十分に確保している。	個々の生徒について、より理解が深まったと感じる教員が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	C・Dなら検討	2月に調査 教員